

NEWSLETTER

特別号 Mar. 2020

—第5回 現代ビジネスプラン・コンペ 特集—

©兵庫大学ドローン研究会

兵庫大学では、高校生を対象とした現代ビジネス学部主催「第5回現代ビジネスプラン・コンペ2019」を実施し、本選会を2019年12月14日（土）に本学5号館401教室にて開催しました。これまでと同様に《第I類》《第II類》の2部門で募集し、第1次審査を通過した7校10チームの皆さんが、それぞれのビジネスプランについてのプレゼンテーションを行いました。その内容をお伝えします。

第I類 あったらしいな、こんなビジネスプラン

【最優秀賞】青森県立名久井農業高等学校 「農業女子の農援革命!!」

青森県はりんごやさくらんぼなどの果物の名産地ですが、農業従事者の減少と高齢化という問題に直面しています。その一方で、非農家の若者の中には農業に携わる仕事に就きたいと考えている人がいるにもかかわらず、農業に携わる場がないという課題もあります。この点に注目し、農業に従事したい若者を通年雇用して「一網打尽作戦」で高齢果樹農家の農援事業を行う派遣会社の設立を提案しました。8人1チームで4月15日から5月15日まではドローンでの受粉事業を行い、5月21日から翌年の4月15日までは摘花・摘果、着色管理、収穫、剪定などの作業を支援します。さらに、農家が赤字にならずに派遣会社を利用できるように、インターネットを有効活用する農家の経営改革を提案しました。このプランによれば、初年度に16人の若者が農家20軒を支援すれば120万円の純利益を上げることができます。2年目以降は従業員を10人増やし、作業区域を順次広げることで、事業規模の拡大も見込めます。持続可能な農業で持続可能な町づくりを展開する「地方創生を意識したソーシャルビジネス」です。



【優秀賞】金光学園高等学校 「世界遺産を凌駕する吉備古墳」

岡山県には6つの日本遺産がありますが、同校はこの中から桃太郎伝説にかかわる造山（つくりやま）古墳に注目して、観光ビジネスプランを提案しました。造山古墳は、登頂できる古墳としては日本一で、秦の始皇帝陵やクフ王のピラミッドに匹敵する規模です。そこで、造山古墳の魅力を発信する事業として、(1) 登頂した人をドローンで撮影した動画の販売、(2) 市の広報誌やSNSなどさまざまなメディアを融合させた広報を行い、観光客の増加を目指します。岡山県には台湾・韓国・香港などアジア各国から多くの観光客も訪れているため、インバウンドをターゲットとすることで世界にもアピールできるプランです。



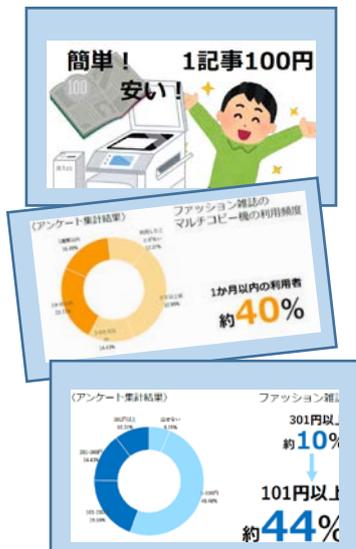
【審査員特別賞】兵庫県立相生産業高等学校「Oyster's shell power～廃棄物から特産品を～」

相生市の特産品である牡蠣の殻は、毎年その廃棄費用が1000万円もかかっています。同校では、これまで牡蠣殻を原材料とした商品の開発に取り組んでおり、今年は牡蠣殻を使ったフェイスパックとハンドクリームを開発・販売に成功しました。提携企業の選定から始まり、試作品作成、アンケート調査を経て、9月からの販売実習にて実際に生徒たち自身の手で販売しました。その結果、お客様より「塗り心地がよい」、「しっとりする」等の好意的な評価をいただきました。今後は、価格を下げ、より多くの店舗で開発した商品が販売され、相生牡蠣の知名度UPに貢献していく予定です。



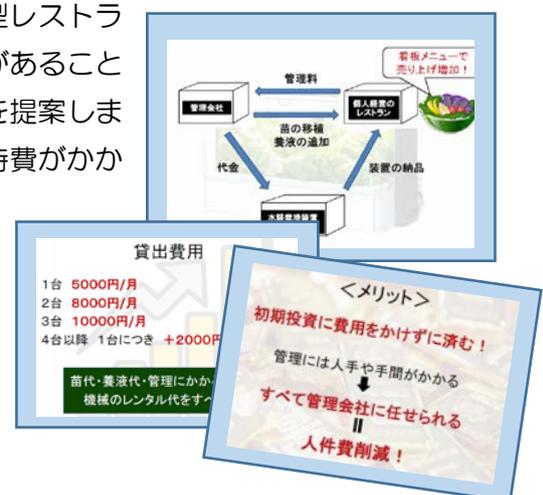
【現ビズ賞】神戸星城高等学校 「マルチコピー機は私の写真日刊紙」

コンビニには高校生が読みたい雑誌がたくさん置いてありますが、その雑誌の記事すべてに興味があるわけではなく、お小遣いで雑誌1冊を購入するには負担が大きいです。そこで、読みたい記事だけを安く購入できるビジネスを考えました。コンビニのマルチディスプレイで読みたい雑誌の記事を選択して印刷し、コピー機のコイン投入口から料金を支払います。インターネットでも雑誌を閲覧できますが、紙で読む楽しさ、スクラップしていく楽しさを提供でき、出版業界にとってもあらたな販売方法となります。このビジネスプランの可能性について、同校生徒435人にアンケート調査により検証したところ、150名の生徒が顧客ターゲットになりうると試算されました。この割合を全国の高校生に換算すると、利用者は約80万人、1人が1カ月に300円利用すると月間2億4,000万円の売り上げが計上されます。コンビニには出力枚数に応じた配当が収入となります。実際には、どのくらいの出版社が記事を提供してくれるのか、またどれくらいのコンビニがマルチコピーの多面的利用に協力してくれるのかという不確定要素はありますが、高校生、出版社、コンビニすべてに利益となる「三方よし」のビジネスになると期待できます。



【現ビズ賞】東洋大学附属姫路高等学校 「究極の地産地消で顧客数アップへ」

同校は、消費者の食の安全・健康志向の高まりに伴い、地産地消型レストランが増加する傾向にあり、なかには店産店消を導入するレストランがあることに注目し、野菜の水耕栽培キットを店舗に貸し出すビジネスプランを提案しました。レストランが植物工場を設置すると多額の初期投資費用や維持費がかかります。そこで、たとえば花屋の副業として管理会社となって植物工場をレンタルし、苗の移植や養液の追加などの栽培作業も行うことで、個人経営のレストランでも店産店消が可能になります。レストランにとっては自家栽培の野菜を食材にすることで他店と差別化できます。また、少量から育てられるため、希少価値のある伝統野菜を栽培し、ブランド価値を高めることも可能です。



第Ⅱ類 あったらしいな、こんな地域活性化プラン

【最優秀賞】青森県立名久井農業高等学校 「『フルーツの里南部町』をスイーツの街に!!」



南部町は、平成12年から「フルーツの町」としてPRしています。町には観光農園が約40か所あり、グリーンツーリズムも活発です。しかし、同町にはケーキ屋、カフェは1軒ずつしかなく、フルーツの里を活かせていません。そこで、隣接する八戸市にはパフェ専門店がないことから、観光農園を訪れる家族などをターゲットにフルーツパフェの製作に取り組みました。課題研究では、モモやシャインマスカットのパフェをつくり、さらに、三八上北地方の各家庭に植えている柿の木に注目して、渋柿の渋味を牛乳を使って手間をかけて取り除き、牛乳柿プリンを完成させました。出来上がった商品を、今後販売していく予定です。同校のアンテナショップのあるNPO法人では「農福連携」に加え「農福食連携」に力を入れています。農福食連携のスイーツ店ができれば、農家、障害者、パティシエそれぞれの新たな活躍の場となり、持続可能な街づくりにつながる地域活性化プランです。

【優秀賞】兵庫県立松陽高等学校

「学科間・産学・高大連携事業～高校生によるSDGs Project～」

同校は、災害を「自分事」として感じてもらうために何ができるかを考え、災害食にかかわる啓発活動に取り組みました。災害食の5つのコンセプト（「いつでも」「どこでも」「誰でも」「すぐに」「美味しく」食べられる）を作り、健康に良いブルーベリーを使ったパンの缶詰「松の陽だまりパン」を商品化しました。この取り組みについて、地域やメディアの方々から年間40回の発表を行い、多く注文されるようになりました。あらたな課題として、保存期間後に大量廃棄されない仕組みづくりが必要だと考え、購入者を2次元コードで管理し、(1)賞味期限のお知らせ、(2)期限の迫った商品を回収し福祉施設などへの無償提供、(3)回収に協力したリピーターへの割引販売というローリングストックプロジェクトを提案しました。



【審査員特別賞】岡山県立倉敷古城池高等学校 「リアルプラットフォーム商店街」



同校は、岡山県倉敷市水島地域にあり、地元では水島商店街の活性化が課題となっています。そこで、地元の「名物な人」を売りにした“リアルプラットフォーム商店街”を提案しました。商店街には、航空宇宙産業研究会会長が経営する和菓子屋など名物な店もあり、倉敷出身の有名人も多数います。空き店舗を有名な人を紹介する展示場に、SNSで「名物な人」の出店情報を発信し、ファンやマニアが商店街を訪れる仕組みを考えました。参加料1000円で展示会巡りをし、全部巡った後、水島商店街限定の商品券1000円と交換します。地元の人もすごさや面白さに気づき、商店街がにぎやかになるというアイデアです。

【現Biz賞】金光学園高等学校 「伝統を世界へ～白石踊で笠岡を世界へ発信～」

笠岡市白石島に伝わる白石踊は、800年の伝統があり国の重要無形民俗文化財に指定されています。しかし、過疎高齢化のため、後継者不足が課題となっています。同校ではこれまでに校内での白石踊講習会を開催したり、白石踊体験ツアーに参加し、生徒自身が後継者になる活動を行ってきました。さらに、笠岡市と白石島の活性化を目指して、白石踊体験、スカイランタンを用いた空への灯籠流し、民泊での島の生活体験からなる「白石島魅力体験ツアー」を提案しました。広告方法として、(1)外国人対象の白石踊講習会や白石踊レクチャー動画の配信、(2)Vtuber アイドルの制作・活用を通じて、日本国内のみならず、世界中への情報発信を考えました。白石踊（白石島）への認知・興味が高まれば、後継者不足も解消し、観光産業の振興・雇用の増加も期待できるというプランです。



【現Biz賞】東洋大学附属姫路高等学校 「WAKANA プロジェクトで子どもたちに食育を」

現在小学校での食育が重要視されていますが、実際に野菜を栽培するとすると、時期や土地の制約があります。同校では、姫路の伝統野菜「姫路若菜」の栽培キットを使った食育プロジェクトを提案しました。姫路若菜は、寒さに強く明治時代には盛んに栽培されましたが、不揃いで製品化が難しいなどの理由から現在では出荷量がごく少量になっています。しかし、(1)冬に室温で育てられる、(2)連作障害が少ないなどの特徴があり、少量の養液で育つため、プラコップ栽培でも畑栽培と同等の生育が可能です。そこで、小学校で姫路若菜をプラコップ栽培し、学校内で調理する「WAKANA プロジェクト」を考えました。子どもたちが自分で作って自分で食べることで、野菜嫌いを減らすきっかけになるとともに、姫路若菜への興味が高まり、需要増加につながります。これにより、遺伝資源の保全、伝統的食文化の保護、さらには、姫路の農業振興も期待できます。



* * *



兵庫大学現代ビジネス学部主催「第6回 現代ビジネスプラン・コンペ2020」のご案内

2020年度も下記のようにビジネスプラン・コンペを開催します。高校生らしい若さあふれるビジネスプランをお待ちしています。ふるってご応募ください。

【応募期間】 2020年6月1日(月)～2020年10月26日(月) 予定

【本選会】 2020年12月中旬に開催予定

※ 実施に関する詳細は、2020年5月下旬に、本学ホームページにてご案内いたします。